Column Takashi Ikari

静脈業界をリードするヒト 連載コラム

静脈業界を牽引するリーダー：碇 隆司

第４回 必要なことはいつも現場が教えてくれる
～第三者に申し開きができる仕組みづくりへの挑戦～

1993年、古物商の許可をとってスタートした有限会社アンカーネットワークサービスは、まもなく収集運搬の許可も取ることになる。お客様のもとへパソコンを回収しに行くと、併せて廃棄物の引き取りも依頼されることが少なくなかったからだ。まだ有価物としてのPCの回収しかしていない頃から、私は収集運搬の許可取得が必要だと感じ、1995年には産業廃棄物収集運搬（積替保管を含む）の許可を取得し、産業廃棄物の収集運搬事業も開始した。

いつも感じることだが、必要なことはいつも現場が教えてくれる。当時廃棄物の不法投棄は今よりも考えられないくらい多い時代だったが、誰に言われることもなく許可が必要だと思った背景には、子どもの頃から正しいことと悪いことを突き詰めて考える土台があったからだと思う。

私が物事をよく考えるようになったきっかけは、小学校２～３年生の頃にある。家族会議で「みんな集まれ！」と号令をかけられたので、最初はおやつの時間で呼ばれたのかと思い居間に行くと、テーブルの上には兄弟３人の通知表が並べられており、兄と姉はオール５であるのに対して、私は２と１ばかりであった。父親から強く叱責され、かつ兄姉と比較されたショックは大きく、一晩中眠ることができなかった。

父は「命よりも体裁の方が大事だ」という厳格な気質を持っており、「もっと勉強しろ！」と言われ、人として対等に扱ってもらえないことに反発しては怒られる日々だった。こうした幼少時代を過ごし、青春時代には、何が一番正しいのか？心理の言葉で答えが出るまで深く考えるようになった。

中古IT機器のリサイクル事業を開始した私は、収入は得られるものの年々違和感が強くなっていった。松下グループで学んだこととは違い、利益だけを求める人が多い業界だったからだ。安く仕入れて高く売ることだけを追求し、社会のルールを逸脱しても構わないという不穏な空気が漂う業界で会社経営を続けていくうちに「コンプライアンスを制する者が循環型社会を制する！このグレーな業界を真っ白な業界にしたい！」と強く思うようになった。

昔の東京都産業廃棄物協会（現・東京都産業資源循環協会）に入会した時、今のESJ顧問でもある細田衛士先生が講演会で「産業廃棄物の処理フローはどの工程でも第三者が見て評価ができて社会に申し開きのできる仕組みをつくりなさい」ということを講演してくださり、業界に違和感を持っていた私は心の中の暗雲が晴れる思いがした。

細田衛士先生（左）と碇隆司

そして第三者が見て評価できる仕組みをつくるには国際標準であるISOしかないと思い取得を進めていった。ところが当時ISOを取るなど中古業界では一例もなく、「仕入れ価格がバレて適正価格でないことが分かってしまう。そんなお金のかかるライセンスを取っても仕方がない。バカではないか？」という言葉を浴びた。

関係者からは「安く買って高く売ればいいんだからアルバイトを使えばいいじゃない。そもそもISOの認証を取るのはすごく大変だし、何でそんなことをするんだ。無理だろう」と言われた。「もしISOが取れたら金町駅まで逆立ちで歩いてやるよ」とまで言われたこともある。当時の会社から金町駅までは徒歩20分ぐらいの距離で、もちろん現実的ではない。

そんな悔しい思いをしながら、「不適切な処理なんか絶対に良くない。仕事がなくなってもいいから俺はそんなことはしない」「だからこそのISOだ！絶対ISOを取ってお客様から『仕事の依頼をしよう』そう言われるようになるぞ！」という強い意志で取り組んでいった。

その後、紆余曲折を経て1999年に環境分野のISO140001を取得、続いて2002年にISO9001品質管理、2008年ISO27001情報セキュリティ、2013年Pマーク、2016年R2※1、OHSAS（ISO4500労働安全）についても取得した。

特に思い出深いアメリカの規格であるR2は、アローエレクトロニクス社から「外資系企業はR2を取得している業者でないと仕事を頼めない」と言われたことがきっかけで、パソコンの排出先の先のさらに先までトレースができるエビデンスや、人への害がないこと、限りある資源を有効活用することなどが求められた。日系企業では初の認証取得であり、社内環境の整備、基準づくりの他、エビデンス確認のために販売先のお客様先を監査させていただくなど、前例がなく困難を極めた。不正を許さないという思いから始まった業界初の取り組みは、丁寧な説明の繰り返しで実現したと自負している。

そしてあるとき、中古パソコンを扱う同業者の方から「この業界においてどの中古業者よりもアンカーさんが先取りしているため、ベンチマーキングしている」と話していたことを教えてもらった。陰で悪く言われるのではなく、実は一目置かれる存在になってきたのかも知れない。

不正を正したいという思いは中古品や再資源化素材の売買だけでなくソフトウェアにも発展する。2009年からは不正OSを撲滅するためMicrosoft社のMARプログラム※2に参加し、正規OSをインストールして販売する事業も開始した。

OS入りのパソコンは法人販売だけでなく、楽天市場で個人のお客様にも販売することができ、現在は学生向けにも販売している。物の命を次につなげる、社会循環品の行き先が増え、より長く使ってもらえることを嬉しく思う。

【続く】

※1 R2（Responsible Recycling＝責任あるリサイクル）…米国環境保護庁（EPA）の指導のもと、電気・電子機器リサイクル関連事業者に対し責任ある行動を促進させ、またその行動を評価するために開発された自主的な原則・ガイドライン

※2 MAR（Microsoft Authorised Refurbisher）…マイクロソフト認定再生PC事業者から出荷される再生PCに、Windowsオペレーティングシステム（OS）のセカンダリライセンスを提供するプログラム。正規のソフトウェアを利用できるため、再生PCのハードウェア性能を最大限にご活用することができる。

著者
株式会社アンカーネットワークサービス
代表取締役CEO
碇 隆司